

準備時間が学習者の発話に及ぼす影響： 習熟度の違いとタスクの違いに 焦点を当てて

藤田 卓郎

(福井工業高等専門学校非常勤講師)

第39回 中部地区英語教育学会 静岡大会

6月27日(土) 於 常葉学園大学

本研究への経緯

- スピーキング活動における準備時間の可能性
- 様々な準備時間研究(例:Yuan & Ellis, 2003)
- プリタスク・プランニング:
 - 発話前に与えられる準備時間
 - 流暢さを向上させる傾向
- オンライン・プランニング:
 - 発話中に与えられる時間(モニタリング)
 - 正確さや複雑さを向上させる傾向

プランニング研究の問題点

■ 準備時間の組み合わせの問題

- 準備時間の組み合わせに関する研究はあまりない。
- 相補完的な役割？(Yuan & Ellis, 2003)

■ 実験参加者の問題

- 大学(院)生のみを対象。
- より習熟度が低い学習者に対する影響は？

■ タスクの問題

- 物語タスクを対象とした研究が大半。
- 自由度中(松原, 2007)
- より自由度が高いタスクにおける効果は？

研究課題

- 異なった準備時間を与えることで学習者の発話はどのように変化するのか。
- 習熟度の違いが準備時間の効果にどのような影響を与えるのか。
- タスクの自由度の違いが準備時間の効果にどのような影響を与えるのか。

方法：実験参加者

- 福井工業高等専門学校生1年生 N=32
- 中学校卒業程度の英語能力
- 初級学習者

タスクと手法

プリテスト

- 物語＋ナレーションタスク
- 準備時間(－) 制限時間(＋)



(2weeks)

物語

- ペアを組み、4コマ漫画の説明。
- 自由度は中程度



(1 week)

ナレーション

- ペアを組み、あるトピックについて自分の考えを述べる

トリートメント

	事前準備時間 10mins	時間制限 1分間
準備時間なし (NP)	—	+
プリタスク・プランニング (PP)	+	+
オンライン・プランニング (OP)	—	—
準備時間組み合わせ (CP)	+	—

分析方法

分析指標

生産性	発話時間(秒) 発話語数 (repetition, reformulation, filler等除く)
流暢さ	1分間あたりの発話語数
統語的複雑さ	総語数 / AS-unit数
語彙的複雑さ	Type-Token Ratio
正確さ	誤りのないAS-unit数の割合

分析方法

- 異なる準備時間の影響: プリテストvs.トリートメント
プリタスク・プランニングの効果 (PP+CP)
オンライン・プランニングの効果 (OP+CP)
準備時間の組み合わせ (CP)
- タスクの違いによる影響: 物語 vs. ナレーション
- 習熟度の違いによる影響:
本研究 vs. Yuan & Ellis (2003) , Fujita (2007)

統計手法

- 効果量(effect size)

- Glass's Δ (研究課題1、2)
- Cohen's d (研究課題3)

- 効果量の指標

- 効果量 なし: $|0| \leq \Delta(d) < |0.2|$
- 効果量 小 : $|0.2| \leq \Delta(d) < |0.5|$
- 効果量 中 : $|0.5| \leq \Delta(d) < |0.8|$
- 効果量 大 : $|0.8| \leq \Delta(d)$

結果:異なる準備時間の影響(物語)

△	プリタスク(PP+CP)	オンライン(NP+OP)
語数	0.45	0.20
時間	-0.75**	2.53***
流暢さ	0.85***	-0.02
統語	0.06	-0.10
語彙	0.00	-0.07
正確さ	-0.23	-0.59**

- ・プリタスク・プランニング: **流暢さ**の向上
- ・オンライン・プランニング: **正確さ**の低下

結果：異なる準備時間の影響（ナレーション）

△	プリタスク(PP+CP)	オンライン(NP+OP)
語数	1.34***	−0.40
時間	1.19***	−0.40
流暢さ	0.92***	−0.29
統語	3.00***	2.01***
語彙	−1.52***	−0.43
正確さ	−0.01	−0.27

- ・ プリタスク・プランニング：流暢さ、統語的複雑さの向上
語彙的複雑さの低下
- ・ オンライン・プランニング：統語的複雑さの向上

結果：異なる準備時間の影響（組み合わせ）

△	物語	ナレーション
語数	0.27	1.47***
時間	0.71**	2.68***
流暢さ	0.18	0.52**
統語	0.55**	3.26***
語彙	0.00	−0.11
正確さ	−0.16	−0.07

- 発話時間、統語的複雑さの向上（物語）
- 流暢さ、統語的複雑さの向上（ナレーション）

考察

■ プリタスク・プランニング:

- 流暢さの向上(物語、ナレーション)

⇒タスクの認知的な負担の軽減

⇒形式的側面は必ずしも向上するわけではない

■ オンライン・プランニング:

- 正確さの低下(物語)
- 統語的複雑さの向上(ナレーション)

⇒必ずしも形式的側面が強化された発話を引き出すわけではない。

■ 準備時間の組み合わせ: 相補完的な役割×

結果②: タスクの自由度の違い

	物語タスク			ナレーションタスク		
	なし	プリ	オン	なし	プリ	オン
語数					+	
時間			+		+	
流暢さ	+					+
統語				+	+	+
語彙	+	+	++			
正確さ					++	++

考察

- 全体的にナレーションタスクを行う時、準備時間の影響が大きい。
 - 物語タスク: 語彙的複雑さ向上
 - ナレーションタスク: 統語的複雑さが向上
- ⇒ NPにおいてもタスク間に違い
→ 準備時間の影響というよりもタスクの違い

結果③習熟度の違い:プリタスク

	本研究	Yuan & Ellis	Fujita
語数	0.81***	1.35***	0.43
時間	-1.41***	0.04	-0.04
流暢さ	3.36***	0.64**	0.42
統語	-0.29	2.07***	0.27
語彙	-0.10	0.08	-0.11
正確さ	-0.29	0.50**	-0.17

- 本研究: **流暢さ**の向上
- Yuan & Ellis : **流暢さ、統語的複雑さ、正確さ**の向上
- Fujita: **全体的に低い効果量**。天井効果

結果③習熟度の違い:オンライン

	本研究	Yuan & Ellis	Fujita
語数	0.10	0.93***	2.20***
時間	5.56***	0.83***	1.60***
流暢さ	-0.25	-0.27	-0.47
統語	-0.33	2.00***	0.00
語彙	-0.27	-0.03	-1.00***
正確さ	-0.95***	0.96***	1.07***

- 本研究: **正確さ**の低下
- Yuan & Ellis : **統語的複雑さ**、**正確さ**の向上
- Fujita: **正確さ**の向上。

考察

- プリタスク・プランニング:
 - 大学生レベルの学習者に最も有効
 - 学習者の持つ言語知識の問題
- 流暢さに関しては習熟度の低い学習者にも有効
 - タスクの認知的負担の軽減
 - 余った認知資源を形式的側面に使用するかは？
- オンライン・プランニング:
 - より習熟度の高い学習者に対して有効
 - 学習者の持つ言語知識の問題

まとめ①: 異なる準備時間の影響

- プリタスクプランニングは学習者の発話の流暢さを向上させた。
- オンライン・プランニングは学習者の発話の形式的側面を必ずしも向上させることはできなかった
- 準備時間を組み合わせても発話の流暢さ、複雑さ、正確さのすべての側面を向上させることはできなかった

まとめ②: タスクの自由度の違い

- 全体的に物語タスクよりもナレーションタスクにおいて、準備時間の影響が大きかった。

まとめ③: 習熟度の違い

- プリタスク・プランニングはある程度の言語知識を持った学習者に対して最も有効である可能性。
- プリタスク・プランニングは習熟度の低い学習者に対しては、タスクの認知的な負担を軽減させる可能性がある。
- オンライン・プランニングはより習熟度の高い学習者に対して有効。

教育的示唆

- 習熟度の低い学習者

プリタスク・プランニングを用いてタスクの認知的負担を減らしつつ、形式的側面の指導を積極的に取り入れるような指導をすることができる。

- 習熟度の高い学習者

オンライン・プランニングを行う時間を与えて、自らの発話をモニタリングする活動を取り入れることで、より言語形式に焦点を当てたスピーキング活動を行うことができる。

ご清聴ありがとうございました。
御意見、御質問等よろしくお願いします。

References

- Foster, P., Tonkyun, A., and Wigglesworth, G. (2001). Measuring spoken language: A unit for all reasons. *Applied Linguistics*, 21, 354-375.
- Fujita, T. (2007). The influence of two types of planning time on learners' oral performance. *The Bulletin of Chubu English Language Education Society*, 37, 195-202.
- Krashen, S. D., and Terrell, T. D. (2000). *The natural approach*. London: Prentice Hall
- 松原 緑 (2007). 「タスクの自由度が学習者の産出パフォーマンスに与える影響」『中部地区英語教育学会紀要』第37号. 181-188頁
- 水本篤・竹内理 (2008). 「研究論文における効果量の報告のためにー基礎的概念と注意点ー」『英語教育研究』第31号. 57-66.
- Skehan, P. (1998). *A cognitive approach to language learning*. Oxford: Oxford University Press.
- Yuan, F., & Ellis, R. (2003). The effects of pre-task planning and on-line planning on fluency, complexity and accuracy in L2 monologic oral production. *Applied Linguistics*, 24, 1-27.